

「グローバルエンジニア」育成のための一考察
— 英語による英語授業 「モデルコアカリキュラム」のための英語プレゼンテーション、
TOEIC Listening 演習、図書館における英語多聴多読図書に関連して —

小林 貢

A Study on Human Resource Development of NIT, Akita College:
English Class in English, MCC of NIT, TOEIC Listening Exercise,
and Extensive English Listening and Reading in School Library

Mitsugu Kobayashi

(令和元年 11 月 29 日受理)

It should be taken into consideration that English class in English, MCC (MODEL CORE CURRICULUM) of NIT, TOEIC listening exercise, and extensive English listening exercise and reading in school library could each play an important role for human resource development of NIT, Akita College.

The purpose of this thesis is to suggest an approach to improve some spontaneous English abilities for our students and teachers by applying the ways of Learner Autonomy and MCC of NIT to human resource development of NIT, Akita College.

We have been making many attempts to establish students' voluntary English learning and let them know the world-wide point of view for engineering design. If they keep studying their specialties autonomously and trying to communicate with foreigners in English, they can contribute to the world as international engineers.

Keywords: English class in English, MCC (MODEL CORE CURRICULUM) of NIT, TOEIC listening exercise, Extensive English listening and reading in school library

1. はじめに

「本校の英語教育について」の特色ある取組として、以下の3点を挙げる。

1. 本校の英語教育においては、英語学習に対するモチベーションを高める手段の一つとして英語に関する資格試験の受験を奨励している。その経過として本校は平成 11 年度から平成 19 年度まで、9 年連続して実用英語技能検定奨励賞に、平成 20 年度には優秀団体賞に、平成 21 年度には優良団体賞に、平成 22 年度及び平成 23 年度には奨励賞に、平成 25 年度においては優良団体賞に、平成 26 年度は優秀団体賞に選考された。また、平成 28 年度実用英語技能検定において優秀団体賞(受験率伸長差部門)を受賞した。そして、平成 29 年度実用英語技能検定および平成 30 年度実用英語技能検定において奨励賞を受賞した。

2. 本校は、TOEIC Test に対して、積極的に授業において取り組んでおり、その成果は、TOEIC スコアにも現れている。過去における TOEIC スコアについては以下の通りである。平成 18 年度において専攻科の評価指標である大学院における TOEIC 平均スコア 479 点を超えた専攻科生は 7 名おり、最高点は 635 点であった。平成 19 年度の大学院における TOEIC 平均スコアの 484 点を超えた専攻科生は 5 名おり、最高点は 660 点であった。平成 20 年度の大学院における TOEIC 平均スコアの 491 点を超えた専攻科生は 6 名おり、最高点は 745 点であった。平成 21 年度の大学院における TOEIC 平均スコアの 494 点を超えた専攻科生は 7 名おり、最高点は 855 点であった。平成 22 年度の大学院における TOEIC 平均スコアの 507 点を超えた専攻科生は 7 名おり、最高点は 720 点であった。平成 23 年度においては専攻科の評価指標が大学院 4 年の平均スコ

アに変更となり、平均スコア 593 点を超えた専攻科生は 1 名で、最高点は 620 点であった。平成 24 年度の大学院 4 年平均スコア 614 点を超えた専攻科生は 5 名で、最高点は 700 点であった。平成 25 年度の大学院 4 年平均スコア 594 点を超えた専攻科生は 2 名で、最高点は 615 点であった。平成 26 年度の大学院 4 年平均スコア 605 点を超えた専攻科生は 0 名で、最高点は 570 点であった。平成 27 年度の大学院 4 年平均スコア 587 点を超えた専攻科生は 1 名で、最高点は 640 点であった。平成 28 年度の大学院 4 年平均スコア 622 点を超えた専攻科生は 2 名で、最高点は 640 点であったが、同年度において TOEIC スコアによる学生表彰は廃止された。

平成 29 年度における、本科 4 年の TOEIC 平均スコア 443.4 点であり、専攻科 1 年の TOEIC 平均スコアは 423.0 点であった。本校は平成 30 年度“KOSEN4.0イニシアティブ”に採択された事業における成果指標として「本科 4 年の TOEIC 平均スコアを平成 29 年度の 443 点から毎年 10 点ずつアップし、令和 3 年度には 500 点とする」という目標を掲げて英語教育に取り組んでおり、平成 30 年度における本科 4 年生の TOEIC 平均スコアは 445.9 点となり、前年度の平均スコア 443.4 点から微増する結果となった。そして、本校の専攻科 1 年の TOEIC 平均スコアは、平成 30 年度は 493.6 点、令和元年度は 516.9 点でした。今年度においても TOEIC 平均スコア向上に取り組む予定である。

3. 平成 21 年度高専改革推進経費採択事業（「国際性の向上に関する改革推進事業」予算配分は 2 年間で 1,940 万円）として、本校の人文科学系（英語）の「国際的な情報発信のための e-learning による人材養成プログラム」が、高専機構から選定された。プログラムの概要は、「e-learning による英語学習に加えて外国人による専門分野に関する講演会により、TOEIC に十分対応できる国際的に活躍できる人材の養成を図る。そして、情報発信の推進のための国際教養大学（以下、AIU）Dr. Kirby Record 先生によるライティングのプログラム『情報発信のための Lesson』の演習を行うことで、学生が国際学会等で専門に関する発表をできるための英語力の素地を養成する。」であった。プロジェクトの成果については、平成 23 年度に高専改革推進経費事例発表会（於：鹿児島大学）において発表し、『文部科学時報 3 月号』（2012 年 3 月号）に掲載された。

AIU との連携については、平成 26 年度においても継続しており、6 月 23 日に「グローバル人材養

成講演会」として AIU Dr. Darren J Ashmore 先生による英語による講演会「人形芝居」を実施した。そして、11 月 19 日には 5 年物質工学科生物コースの「タンパク質工学」において授業担当教員と AIU Dr. Andrew Crofts 先生による DNA の構造と機能についての英語授業を実施した。

平成 27 年度においては、7 月 22 日に「グローバル人材養成講演会」として AIU Dr. Patrick Dougherty 先生による英語による講演会「Describing Japanese Customs in English」を実施した。そして、『グローバル人材養成授業：英語による専門授業「タンパク質工学」』については、平成 27 年度の本科 5 年物質工学科生物コース学生対象の専門授業である「タンパク質工学」において、ネイティブの教員である AIU Dr. Andrew J. CROFTS 先生が、DNA の構造と機能について平易な英語及びクリッカーを使用したアクティブ・ラーニングを実施することにより、学生が国際学会等で専門に関する発表をできるための英語力及びプレゼンテーション能力の素地を養成する授業を平成 27 年 11 月 16 日 7, 8 校時 301 教室にて実施した。AIU との連携は、“KOSEN4.0イニシアティブ”に採択された事業における English Village として継続しており、平成 30 年度および令和元年度においても 40 名を上限として、本科 2 年の志願をした学生が AIU における授業を受けて、英語コミュニケーションの向上を試みている。

これらに加えて、英語力向上のために本科 2 年生をシンガポール語学研修に派遣しており、それに関連して、「英語による英語の授業」を本科 1 年生および専攻科 1 年生対象として、本校教員が実施している。また、ベトナムへの教員を派遣し、フィンランド大学からの学生を受け入れることに加えて、例年、専攻科学生をフランスへの短期留学に派遣している。また、英語が得意ではない学生対象に本科 1 年英語補習を平成 28 年度から実施を継続しており、実施は英語学習にプラスの効果を与えていることが進級状況から伺える。それに加えて、令和元年度後期からは、本科 2 年英語補習および本科 3 年英語補習についても実施を開始した。

上記に加えて、教育能力の向上のために種々の資格（CompTIA CTT+、シニア教育士（工学・技術）、TKT Module1 Band 4、英語教授法認定資格 CEFR B2、Cambridge English Teacher, Teaching Speaking 等）を取得した教員による、「アクティブラーニング FD 研修会」（平成 27 年 3 月 19 日（参加 23 名））等の FD を定期的にも実施している。

2. 「英語による英語授業」の実施について

平成 26 年度より実施している「英語による英語授業」には、文章の意味を確認する時には、コミュニケーションがうまくいなくなる問題があった。この問題を解決するために、平成 27 年度より平成 29 年度に実施した「英語による英語授業」については、筆者は、本科 1 年通年 英語 I（平成 29 年度より英語 I A）において、週 1 回 2 時間リスニングを担当し、教科書：「スヌーピーと学ぶライティングとリスニング LIFE WITH SNOOPY」南雲堂、単語集：「TOEIC テストにでる順英単語」中経出版（平成 30 年度より、「Data Base 4500 5th Edition」桐原書店）を使用した。「LIFE WITH SNOOPY」は、GRAMMAR FOR WRITING, SENTENCES FOR WRITING, ENJOY SNOOPY, GRAMMAR CHECK, WRITING(1)(2), TIPS FOR LISTENING, LISTENING(1)(2), SPEAKING の項目から構成され、文法、作文、リスニング、スピーキングにおいて演習形式で「英語による英語授業」を実施するには特に問題がなく実施できる。ただ、ENJOY SNOOPY における漫画の意味を確認する際においては、コミュニケーションがうまくいかないこともあったので、その後においては、質問をすることでその問題を解決し、「英語による英語授業」の実施を継続した。因みに、平成 27 年度における 1M 英検準 2 級合格学生は 42 名中 3 名、1C 英検準 2 級合格学生は 42 名中 5 名であった。平成 28 年度における 1M 英検準 2 級合格学生は 43 名中 5 名、1C 英検準 2 級合格学生は 40 名中 3 名であった。また、平成 29 年度の第 3 回英検までに英検準 2 級を合格している学生は、1 組は 42 名中 3 名、2 組は 43 名中 5 名、3 組は 42 名中 7 名、4 組は 42 名中 5 名である。平成 30 年度の第 3 回英検までに英検準 2 級を合格している学生は、1 組は 42 名中 2 名、2 組は 41 名中 4 名、4 組は 42 名中 2 名である。

専攻科 1 年後期 応用英語 II において平成 26 年度に実施した「英語による英語授業」については、教科書「Preparation Course for the TOEIC Test」Akira Morita 他 SEIBIDO、補助教材「即戦ゼミ 8 大学入試基礎英語頻出問題総演習」上垣暁雄編著 桐原書店 を使用して、授業の進め方として、「演習形式で行い、2 週に 1 回のペースで補助教材による単語小テストを実施する。尚、E-Learning は課題及び小テストに使用する。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。」に基づき実施した。

評価方法については、「合格点は 60 点である。後期試験結果を 60%、単語小テストを 10%、「TOEIC テスト演習 2000 コース」小テストを 10%、モデルコアカリキュラム（必須）を 20% で評価する。」に基づき実施した。これについては、専攻科生 1 年生が対象だったこともあり、特に大きな問題はなく実施できたと考えられる。平成 27 年度および 28 年度は、教科書：Total Strategy for the TOEIC Test Akira Morita 他 SEIBIDO、補助教材：「即戦ゼミ 8 大学入試基礎英語頻出問題総演習」上垣暁雄編著 桐原書店 を使用して「英語による英語授業」を実施した。平成 27 年度および 28 年度の評価方法については、平成 26 年度と同様であり、ルーブリック評価として、到達目標 項目 1 としては、「国際的に通用するプレゼンテーション能力を修得するための英語によるコミュニケーションに必要な基本的能力を身につける。」ことを目標とし、到達目標 項目 2 としては、「自分や身近なこと及び自分の専門に関する情報や考えについて、200 語程度の簡単な文章を書くことができることに加えて、自分や身近なこと及び自分の専門に関する情報や考えについて、前もって準備をすれば毎分 120 語程度の速度で約 2 分間の十分な口頭説明ができる。」ことを前提としたプレゼンテーションを実施している。平成 27 年度および 28 年度についても、専攻科生 1 年生が対象であるため、特に大きな問題はなく「英語による英語授業」を実施している。

平成 29 年度より、WEB シラバスとなり、教科書「ALL-POWERFUL STEPS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST」Takayuki Ishii 他 SEIBIDO を使用している。WEB シラバスの評価割合は、試験 60%、発表 20%、その他 20% となっている。専攻科生 1 年生が対象であるため、平成 29 年度から令和元年度における「英語による英語授業」についても英語コミュニケーションについては、スピーキングを含め問題なく実施している。

3. 英語Ⅲにおける TOEIC スコア向上プログラム

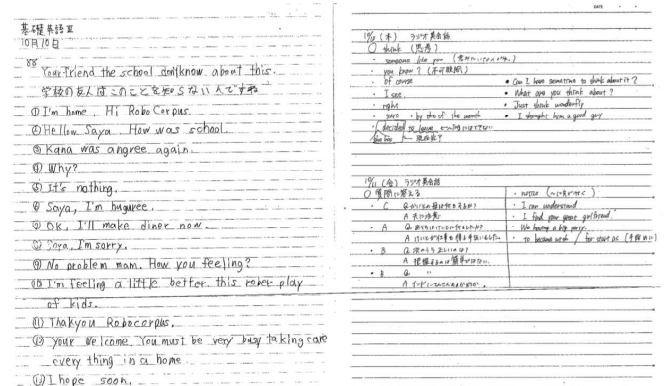
合併教室および大講義室において、平成 30 年度においては、3 年機械系（3M）および土木・環境系（3B）を対象に、教科書「CROWN PLUS English Series Level 4」三省堂、補助教材「新 TOEIC テストに出る順英単語」中経出版を使用した合同授業を実施した。令和元年度においては、3 年機械系（3M）および物質・生物系（3C）を対象に、上記に加え

て、「Listening Pilot Level 3 新訂版」東京書籍を使用したテスト形式の Listening 演習を合同授業で行った。上記は、2019年9月20日に授業において、

3M			3C		
成績順	正解数	Score	成績順	正解数	Score
1	65	290	1	77	360
2	63	275	2	64	280
3	57	245	3	62	270
4	54	235	4	61	260
5	54	235	5	61	260
6	54	235	6	58	250
7	53	230	7	55	240
8	52	230	8	55	240
9	50	220	9	52	225
10	48	210	10	50	220
11	47	205	11	50	220
12	47	205	12	49	215
13	47	205	13	49	215
14	47	205	14	48	210
15	47	205	15	48	210
16	47	205	16	47	205
17	47	205	17	47	205
18	46	200	18	47	205
19	46	200	19	47	205
20	44	190	20	43	185
21	44	190	21	40	170
22	44	190	22	39	165
23	43	185	23	36	150
24	43	185	24	35	145
25	42	180	25	35	145
26	42	180	26	35	145
27	42	180	27	30	130
28	42	180	28	26	115
29	42	180	平均	48.8889	212.222
30	42	180			
31	41	175			
32	40	170			
33	38	160			
34	38	160			
35	38	160			
36	38	160			
37	37	155			
38	37	155			
39	35	145			
40	33	140			
41	32	140			
42	29	130			
43	30	130			
44	29	130			
45	27	120			
46	25	110			
47	18	70			
平均	42.6809	184.468			

3M および 3C の学生対象に実施した TOEIC Listening Test 100 問の模擬試験の結果である。

表からわかるように、3M は 47 名、3C は 28 名で、平均点は、3M は 184 点、3C は 212 点であり、28 点程の格差はあった。この格差を解決し、本科 4 年時の TOEIC® Listening&Reading Test において高得点を目指すために、後期より、番組録音ラジオを使用するか、もしくは「NHK ゴガク」サイトにアクセスすることにより、NHK ラジオの「基礎英語 3」もしくは、「ラジオ英会話」の内容を毎日聴講し、毎週英語Ⅲ授業にレポートを提出することを課題とした。3M の「基礎英語 3」希望学生は 21 名、「ラジオ英会話」希望学生は 26 名、3C の「基礎英語 3」希望学生は 21 名、「ラジオ英会話」希望学生は 7 名である。以下は 10 月 10 日分の「基礎英語 3」および「ラジオ英会話」の提出されたレポートの一部である。



ちなみに、2019年度第2回英検における3Mの2級二次試験合格者は2名、2級一次試験合格者は4名（準2級一次試験合格者は5名）である。2019年度第1回英検における3Cの2級合格者は1名、準2級合格者は2名である。また、第2回英検における3Cの2級2次合格者は1名、準2級2次合格者は0名（準2級1次合格者は2名）である。

4. 図書館における英語多聴多読図書の推奨と実施

筆者は、図書館長の業務を昨年度まで3年間担当して、図書館は、英語多聴多読を推奨し、英語多聴多読図書を新たに準備した。

以下は、本校の平成30年度における『図書館だより第57号』の4頁に「TOEIC Listening & Reading Test についての“Thinking, Fast and Slow”的アプローチ」という題名で、英語多読の必要性について論じた筆者のエッセイである。（以下引用）

2002年にノーベル経済学賞を受賞した、ダニエル・カーネマンは、著書『ファスト&スロー あなたの意思はどのように決まるか?』（村井章子 訳）

早川書房)において、脳の働きを、自動的に発動し、意識的に停止することができない「システム1」、言い換えるならば「直感や感情」と、意識的に起動することでエネルギーを必要するが、「システム1」の判断や決定をモニターし、必要であれば修正を加える「システム2」、別の言い方をすれば、「熟慮」に分類している。

上巻の119頁において、”Ann approached the bank.”と書かれたカードがある。明示的な文脈がない場合、「システム1」は、一番ありそうな文脈である、”Ann was walking toward the bank.”「アンは銀行に向かって歩いてた。」と考えることだろう。だが、もし、直前の文が、”Ann rowed the boat and went down the river slowly.”「アンはボートを漕ぎ出し、ゆっくりと川を下って行った。」であり、その英文を耳にしたならば、「システム2」は、”Ann approached the riverside.”「アンは『川岸』に近づいた。」ことを察知することだろう。

TOEIC Listening & Reading Testを受験する際に、「システム1」および「システム2」を併用することが正解するための近道となる。Listening Testについては、PART1 写真描写問題における写真を「システム2」をフル稼働して、事前に物の配置等を把握しておくことが必要があり、PART2 応答問題においては、国別の方言を含めた対策が必要である。例えば、”When did you come here?”のような質問に対する答えとして、選択肢(A)が、カタカナで表記するならば、「アイ ケイム ヒアー トウダアイ」と聞こえたとしよう。「システム1」を使用して、一番ありそうな文である”I came here to die.”「私は、死ぬためにここに来た。」を思い浮かべ、すぐに間違いだと判断してはいけない。なぜならば、オーストラリア英語において、上記の文は、”I came here today.”「私は、今日ここに来た。」であり、適切な選択肢の可能性があるのである。

次に、PART3 会話問題においては、Elision (例えば、want to を wanna と発音) や Fragments (例えば、会話の断片である、May I?) を聴き取り、意味を補って考えなくてはならない。さらに、PART4 説明文問題においては、アナウンスなどの説明文を聴いて理解すると共に、選択肢の英文についても素早く且つ正確に理解しなくてはならない。

上記に加えて、Reading Test については、PART5 短文穴埋め問題および PART6 長文穴埋め問題においては、英文を完成させるための文法や語彙が、PART7 読解問題においては、図表等の理解を含め

た英語速読力が問われている

結論として、TOEIC Listening & Reading Test は、英語における聴力および読解力の正確さを測定する反応試験なので、解答する際には、「勘」に頼るのではなく、「短時間で、『意識的に』、選択肢のいろいろな可能性を考え、念入りに検討し、選択すること」が必要なのであり、そのためには、事前に十分な英語の多聴多読を行うことが必須なのである。

(以上引用)

導入した Oxford Bookworms Library は、レベルが Starter Level および Level 1 ~ Stage 6 の7レベルがあり、全てのレベルの図書を購入した。具体的には、本校の『図書館だより第57号』の5頁に掲載した audio CD pack 付きの、以下の60冊である。

- 1.Oxford Bookworms Library Starter Level: The Fifteenth Character audio CD Pack を含め10冊。
- 2.Oxford Bookworms Library Level 1 : Aladdin and the Enchanted Lamp audio CD pack を含め9冊。
- 3.Oxford Bookworms Library Level 2 : Anne of Green Gables audio CD pack 含め9冊。
- 4.Oxford Bookworms Library Level 3 : Dinosaurs audio CD pack を含め9冊。
- 5.Oxford Bookworms Library Level 4 : Gandhi audio CD pack を含め9冊。
- 6.Oxford Bookworms Library Level 5 : Sense and Sensibility audio CD pack を含め7冊。
- 7.Oxford Bookworms Library Level 6 : American Crime Stories audio CD pack を含め7冊。

以下は、本校の令和元年度における『図書館だより第58号』の4頁に一般教科長として、「CEFRと英検」という題名で、英語多読の必要性について論じた筆者のエッセイである。(以下引用)

The Ballad of East and West において Rudyard Kipling (1865-1936) は、*OH, East is East, and West is West, and never the twain shall meet, Till Earth and Sky stand presently at God's great Judgment Seat;* と詠んでいます。飛行機等の輸送機関や Internet、携帯電話の通信機器が発達した現代においては、「最後の審判」を待たずとも東洋と西洋は、政治や経済等の観点から相互に理解しようと努力しなければならない状況で、その際の共通言語は、国際語としての英語であることには議論の余地がありません。

CEFR (セフアール) とは、“Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment” の Acronym (アクリニム: 頭字語) で、「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」を意味し、3段階のレベルが設定されています。一番下が A レベル「基礎段階の言語使用者」、次が B レベル「自立した言語使用

ユラムのための英語プレゼンテーション、図書館における英語多聴多読図書の奨励は、本校における英語教育の特色ある取組であると考えられるので、現在、取り組んでいるテスト形式の Listening 演習や「NHK ゴガク」サイトにアクセスすることにより、NHK ラジオの「基礎英語 3」もしくは、「ラジオ英会話」の内容を毎日聴講させ、毎週英語Ⅲの授業においてレポートを提出させることにより、今後も試行錯誤を重ねながらも、TOEIC スコア向上、英検合格者増および英語プレゼンテーション能力向上をを目指して、今後も実施可能な英語教育に取り組んでいく予定である。

参考文献

独立行政法人 国立高等専門学校機構

『モデルコアカリキュラム (試案)』

平成 24 年 3 月 23 日

独立行政法人国立専門学校機構

秋田工業高等専門学校

<http://www.akita-nct.ac.jp/index.html>

CompTIA

<http://www.comptia.org/>

<http://www.comptia.jp/>

福田誠治 「フィンランドは教師の育て方がすごい」

株式会社亜紀書房, (2009.3)

小林 貢 『「英語教育と e-learning」実践についての一考察 --- 過去を踏まえた現在と未来への視座から ---』秋田工業高等専門学校研究紀要 第 48 号, pp.65-71. (2013.2)

小林 貢 『「英語教育と e-learning」実践についての一考察Ⅱ --- 過去を踏まえた現在と未来への視座から ---』秋田工業高等専門学校研究紀要 第 49 号, pp.56-61. (2014.2)

小林 貢 『「英語教育と e-learning」実践についての一考察Ⅲ --- 過去を踏まえた現在と未来への視座から ---』秋田工業高等専門学校研究紀要 第 50 号, pp.59-64. (2015.2)

小林 貢 『「グローバル人材養成」のための一考察 --- CompTIA CTT+ ホルダ研修 FD, 英語による英語授業, 「モデルコアカリキュラム」のための英語プレゼンテーション演習, 図書館における英語多読図書に関連して』秋田工業高等専門学校研究紀要 第 53 号, pp.9-14. (2018.2)

小林 貢 「『ライフシフト』と英語多読」秋田工

業高等専門学校 図書館だより 第 56 号, pp.4-5. (2017.7)

小林 貢 「TOEIC Listening & Reading Test についての “Thinking, Fast and Slow” 的アプローチ」秋田工業高等専門学校 図書館だより 第 57 号, pp.4-5. (2018.7)

小林 貢 「CEFR と英検」秋田工業高等専門学校 図書館だより 第 58 号, pp.4-5. (2019.7)